

グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)

パフォーマンスの振り返りと今後の見通し



ゲノム関連銘柄を主要投資対象とする当ファンドは、2019年1月16日の設定後、約1年が経過し、**純資産総額は1,200億円を突破**(2019年12月末時点)しました。

本資料では、当ファンドの設定来の運用状況や市場環境を振り返るとともに、足元のパフォーマンスの要因や今後の見通しなどについて、当ファンドのマザーファンドの運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)の見解をもとに、ご紹介します。

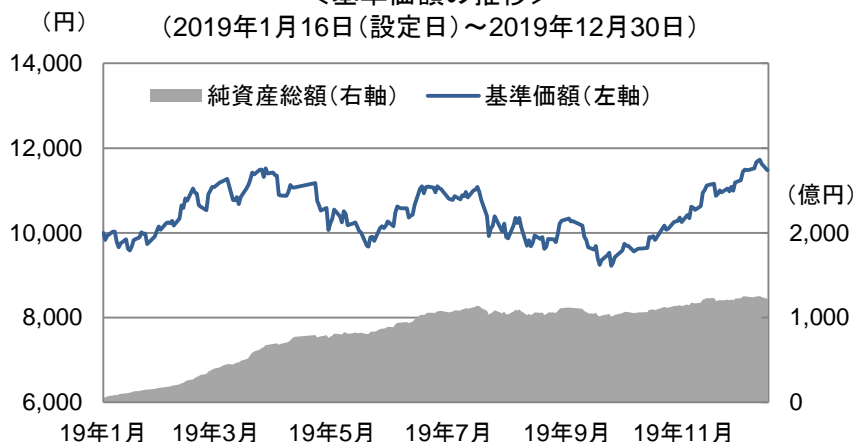
本資料の
内容

- 設定来の投資環境と当ファンドのパフォーマンス … P2
- 銘柄別パフォーマンス寄与度 … P3
- 今後の見通しについて … P10
- アーク社からのメッセージ … P12
- ポートフォリオの状況 … P13

当ファンドの運用状況

＜基準価額の推移＞

(2019年1月16日(設定日)～2019年12月30日)



基準価額
11,478円
純資産総額
1,221億円
2019年12月30日現在

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

設定来の投資環境と当ファンドのパフォーマンス

設定(2019年1月16日)以降、米中通商摩擦の激化や英国のEU(欧州連合)離脱問題などを背景に、世界の株式市場は変動の激しい状況が続きました。また米国では、薬価引き下げ問題などへの懸念から、ヘルスケア関連銘柄などの株価が9月末にかけて、軟調に推移しました。

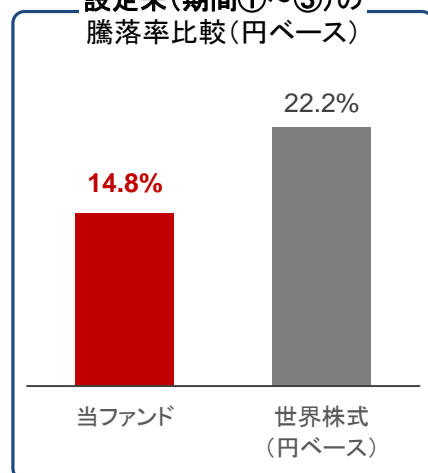
しかし、2019年9月末以降は、米中通商協議や英国のEU離脱問題に進展の兆しが見られたことに加え、FRB(米連邦準備制度理事会)が利下げ停止を示唆したものの、今後の利上げへの慎重姿勢を改めて示したことなどから、世界的に株価は回復基調となりました。

こうした結果、当ファンドのパフォーマンスは、**設定以降の騰落率が+14.8%**(2019年12月30日現在)となりました。

＜当ファンドと世界株式の推移(円ベース)＞
(2019年1月16日(設定日)～12月30日)



設定来(期間①～③)の騰落率比較(円ベース)

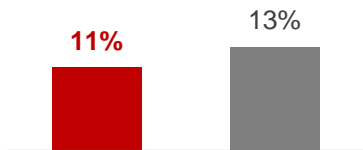


＜期間別騰落率比較(円ベース)＞

■ 当ファンド ■ 世界株式(円ベース)

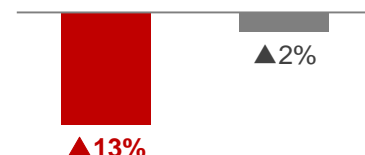
期間① (2019年1月16日(設定日)～4月末)

米追加利上げ懸念の後退や米中通商協議進展への期待などで市場全体が好調に推移する中、当ファンドも上昇したものの、保有銘柄の一部で開発中の医薬品の臨床試験停止発表などを受け、出遅れ



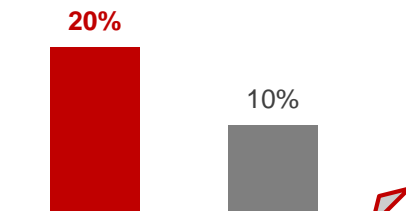
期間② (2019年4月末～9月末)

米中通商摩擦の激化などから市場全体が軟調に推移したことに加え、米国での薬価引き下げ問題や、一部企業の増資による株式価値の希薄化懸念などが重石に



期間③ (2019年9月末～12月末)

米中通商協議や英国のEU離脱問題の進展などによる、投資家のリスク許容度の回復などから、中小型のバイオ関連企業に資金が戻り、株価が上昇基調に



※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※世界株式:MSCI ACワールド指数(トータルリターン、円ベース)の値です。

※上記指数は当ファンドの算出方法に準じ、前営業日の指数値に当該営業日の為替レートに乗じて、日興アセットマネジメントが円換算しています。

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに、日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(設定来)

当ファンドの**設定日(2019年1月16日)**以降のパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。

＜銘柄別パフォーマンス寄与度(円ベース)＞
(2019年1月16日(設定日)～12月末)

寄与度上位5銘柄

銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
CRISPR セラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・ バイオ	3.5%
アイオバンス・バイオ セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	2.9%
アップル	米ドル	米国	テクノロジー・ ハードウェア	2.2%
ヴェラサイト	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	2.2%
テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機 器サービス	1.6%

分子診断サービスなどを提供。

一部疾患に対する同社の検査サービスが、一部メディケア請負業者による医療保険の対象として承認されたことなどが好感。

電話などを使った遠隔医療サービスを提供。
売上高見通しの上方修正などが好感。

寄与度下位5銘柄

銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
パーソナリス	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	▲1.1%
イノビオ・ファーマ シューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	▲1.1%
ベリカム・ファーマ シューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	▲0.7%
ブルーバード・バイオ	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	▲0.6%
イントレクソン	米ドル	米国	医薬品・ バイオ	▲0.6%

ゲノム解析・分析サービスなどを提供。

2019年第3四半期決算での予想を下回る
収益発表などから下落。

DNAに基づくワクチンなどの開発。

増資発表による株式価値の
希薄化などが嫌気。

ガンや血液疾患向け免疫療法などを開発。

CAR-T療法の固形腫瘍に対する有効性に関
して、市場では懐疑的な見方。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。

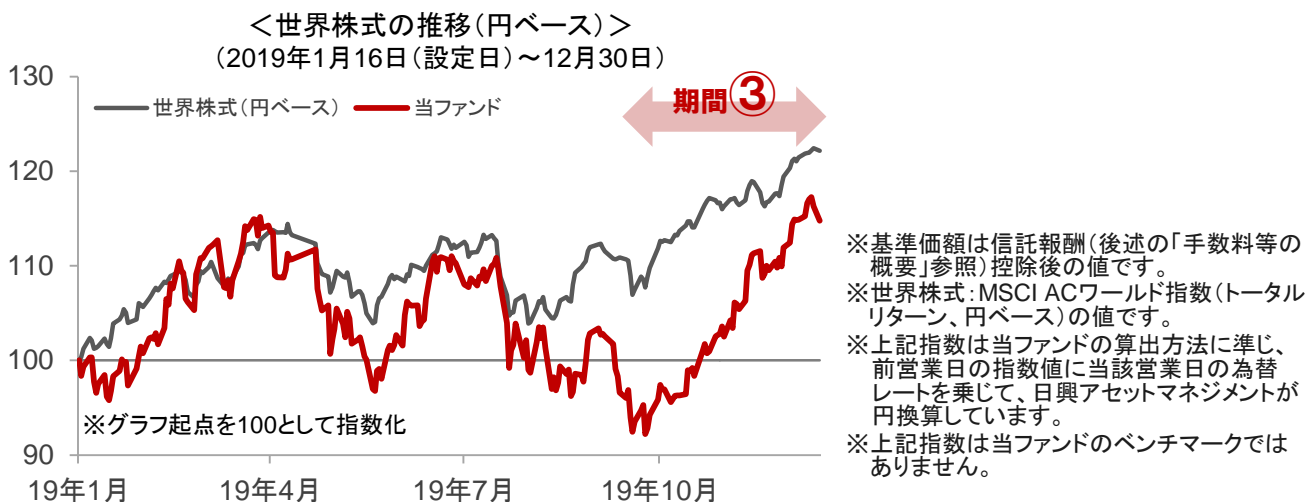
※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の変動に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(2019年9月末～12月末)

また、当ファンドの足元の上昇期間(期間③:2019年9月末～12月末)のパフォーマンスに寄与した主な銘柄は、以下の通りです。



＜銘柄別パフォーマンス寄与度(円ベース)＞ (2019年9月末～12月末)

寄与度上位5銘柄

	銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
★	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオ	2.8%
★	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオ	1.9%
★	アイオバンス・バイオセラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオ	1.5%
★	エディタス・メディシン	米ドル	米国	医薬品・バイオ	1.4%
	ブリストル・マイヤーズ スクイブ	米ドル	米国	医薬品・バイオ	1.4%

寄与度下位5銘柄

	銘柄名	通貨	国・地域	業種	寄与度
	サイロス・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオ	▲0.9%
★	インビテ	米ドル	米国	ヘルスケア機器	▲0.5%
	パーソナリス	米ドル	米国	医薬品・バイオ	▲0.5%
	迪安診断技術集団	中国元	中国	医薬品・バイオ	▲0.3%
	スリー・エス・バイオ	香港ドル	香港	医薬品・バイオ	▲0.3%

次ページ以降で、上記銘柄のうち、「★」マークの銘柄についてご紹介します。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

※業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。

※寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※寄与度は、各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の変動に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。なお、当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

寄与度の大きかった銘柄①

プラス寄与



※写真はイメージです

CRISPR セラピューティクス



スイス

ゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」に基づく 血液疾患の治療薬の研究・開発で先行

企業概要

- ✓ 同社は、画期的なゲノム編集技術「CRISPR/Cas9(クリスパー/キャスナイン)」の基礎的特許ライセンスを保有する3社のうちの1社です。
- ✓ 鎌状赤血球症とβサラセミアなど血液疾患の治療法の研究・開発に特化しています。



※当ファンドの運用期間は2019年1月16日以降です。
なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上昇要因

- ✓ 2019年11月、同社が開発を進めているCRISPR/Cas9技術を使った血液疾患向け治療薬「CTX001」のヒトを対象とした初の臨床試験において、良好な結果が発表されたことを受けて、同社の株価が上昇しました。
- ✓ また、同社の主要なパートナー企業であるバーテックスへのCRISPR/Cas9のライセンス供与を発表しました。これにより同社は、商品ごとに最大約4億米ドルのマイルストーン収入*、および将来のライセンス収入の獲得が見込まれます。

* 開発の進捗に応じて支払われる収入

今後の見通し

迅速な意思決定や高い技術力に加え、血液疾患の研究分野における先駆者としての優位性などから、アーク社では、CRISPR技術を使った患者の体外で行なう遺伝子治療において同社が先行し、業績が拡大すると見込んでいます。

※当ページは、2019年9月末から12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、12月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

寄与度の大きかった銘柄②

プラス寄与



※写真はイメージです

リジェネロン・
ファーマシューティカルズ



米国

世界最大級の遺伝子研究施設を保有する
大手バイオ医薬品メーカー

企業概要

- ✓ 重症患者向け治療薬の研究・開発を手掛ける、大手バイオ医薬品メーカーです。
- ✓ 同社は、世界最大級の遺伝子研究施設を保有し、ゲノムやAI(人工知能)などの技術を通じた創薬の迅速化などを研究しています。



※当ファンドの運用期間は2019年1月16日以降です。
なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上昇要因

- ✓ 2019年11月に発表された第3四半期の良好な決算内容や、10億米ドルの自社株買いの発表などを受け、同社の株価は上昇しました。
- ✓ また、様々ながんに対する臨床研究が進む免疫チェックポイント阻害剤*「センプリマブ」や、特定の難病への効果が期待される「ポゼリマブ」などの臨床試験において、良好な中間結果が発表されたことなども好感されました。

* 免疫細胞の機能を抑制するがん細胞の働きを阻止する薬

今後の見通し

アトピー性皮膚炎や喘息の治療薬「デュピクセント」などが、今後の同社の成長を下支えすると期待されます。また、非小細胞肺癌における臨床試験が進行中の「センプリマブ」で2020年に臨床データのアップデートが予定されており、良好な臨床データの発表が期待されます。

※当ページは、2019年9月末から12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、12月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

寄与度の大きかった銘柄③

プラス寄与



※写真はイメージです

アイオバンス・ バイオセラピューティクス



米国

がん免疫療法の開発・商品化に強みを持つ
バイオ医薬品メーカー

企業概要

- ✓ 米国で事業を展開するバイオ医薬品メーカーです。
- ✓ 腫瘍浸潤リンパ球*に対するがん免疫療法の開発・商品化に注力しています。

* がん細胞の近くに集まっているリンパ球などの免疫細胞



上昇要因

- ✓ 同社が開発中の悪性黒色腫治療薬において、オプジーボやキイトルーダなどと比較して良好な臨床結果が発表されたことなどが好感されました。
- ✓ また同社が開発中のがん免疫療法治療薬の治験開始が認められたと発表したことも、株価上昇に寄与しました。

※当ファンドの運用期間は2019年1月16日以降です。
なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

今後の見通し

同社は、現在臨床試験中の子宮頸部がん治療薬において、対象患者を追加したことを発表しました。これは臨床試験が順調に進んでいることを示しており、今後の臨床データの発表が期待されます。

※当ページは、2019年9月末から12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、12月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

寄与度の大きかった銘柄④

プラス寄与



※写真はイメージです

エディタス・メディシン



米国

ゲノム編集技術「CRISPR/Cas9」の 基礎的特許ライセンスを持つ3社の一角

企業概要

- ✓ 同社は、画期的なCRISPR/Cas9の基礎的特許ライセンスを持つ3社のうちの1社です。
- ✓ 遺伝性の眼の疾患や血液疾患、がんなど、様々な病気の治療法・治療薬を研究・開発しています。



※当ファンドの運用期間は2019年1月16日以降です。
なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

上昇要因

- ✓ ゲノム編集治療における同社とセルジーンとの共同開発の合意内容についての変更を発表したことを受けて、株価が上昇しました。
- ✓ この合意内容の変更により、同社が7,000万米ドルの前払い金の受け取りに加え、将来のマイルストーン収入が期待されるほか、がんや自己免疫疾患*向けのゲノム編集されたT細胞(免疫細胞)を活用した製品の共同開発が可能になります。

*免疫が、何らかの原因により、自身の細胞やタンパク質を異物と認識して攻撃してしまうことで症状を起こす疾患の総称

今後の見通し

今回の合意内容の変更は、同社の自社内での固形がん治療などにおける優位性の維持に寄与すると、アーク社では考えています。

※当ページは、2019年9月末から12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、12月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

銘柄別パフォーマンス寄与度(続き)

寄与度の大きかった銘柄⑤

マイナス寄与



※写真はイメージです

インビテ



米国

遺伝子検査、分子診断サービスの大手

企業概要

- ✓ 遺伝子検査サービスを提供しています。
- ✓ 特に血液などを調べることで患者の病気を特定する分子診断サービスの中心的な企業のうちの1社です。



※当ファンドの運用期間は2019年1月16日以降です。
なお、当該期間がご紹介銘柄の保有期間と同一であることを示すものではありません。

下落要因

- ✓ 同社の年間の目標である「少なくとも50万件の検査数」の達成に対する、投資家の懐疑的な見方などから、同社の株価は下落しました。
- ✓ また、同社は9月に2億米ドルの転換社債の発行を発表(後日、3億米ドルへ増額)しました。これによる株式価値の希薄化懸念などが嫌気されました。
- ✓ なお、同社では転換社債による調達資金は既存の社債の返済資金に充てるほか、設備投資、国際的な事業の拡大など、将来の事業拡大のための資金と説明しています。

今後の見通し

アーク社では、同社の分子診断サービスの検査精度の高さやコスト競争力などから、同社のサービスが標準的な診断方法となる可能性があると考えており、今後の同社の長期的な検査数量は増加すると考えています。

※当ページは、2019年9月末から12月末までの基準価額騰落への寄与度の大きな銘柄のうち、12月末のポートフォリオ組入上位銘柄について、アーク社からのコメントや各社発表情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

アーク社の視点



今後の見通しについて

ゲノム解析コストの低減により、様々な分野で需要が拡大

- **ゲノム解析コストは過去15年間で100万分の1以下に低下**しています。昨今、米国では薬価引き下げ問題が取り沙汰されていますが、ゲノム解析技術を用いた診断手法は、数十種類の検査が必要な現在の診断を血液検査で代替可能とするものであり、**医療費(診断コスト)の大幅抑制につながる**と考えられています。
- さらにアーク社では、**2024年までにヒト1人当たりのゲノム解析コストは200米ドルまで下がる**と予想しています。こうしたゲノム解析コストの低減による、ゲノム解析技術を用いた診断の増加が支援材料となり、**ゲノム解析機器の総市場規模は拡大傾向**がみられる中、今後、**ヘルスケアやゲノム診断薬分野の新たな需要が生み出される**と見込まれます。
- ゲノム解析における代表的な企業であるイルミナは、2020年1月13～16日に行なわれたヘルスケアコンファレンスで、いくつかの新しい製品を発表しました。これらの新製品は、小規模な研究所や病院など幅広い施設での採用の拡大につながると、アーク社では考えています。また、こうした新製品の採用拡大は、同社製品で使用される消耗品の需要増加にもつながり、同社の収益性の向上に寄与すると見込まれます。

～コラム～

日本でも本格的に進み始めたゲノム解析の活用

- 日本では2019年6月、ゲノム解析技術を活用して、がん遺伝子の解析を行なう「がん遺伝子パネル検査」が健康保険の適用対象となりました。
- これにより、数十万円と高額だった同検査が、原則3割の自己負担で受診可能となりました。また、従来の1度に1つまたは少数の遺伝子を調べる遺伝子検査では、解析の対象となるがんの種類も限られていましたが、次世代ゲノム解析機器で包括的な解析を行なうがん遺伝子パネル検査では、複数のがん関連遺伝子を一括で調べるため、1回の検査で遺伝子変異に応じた薬剤の選択が可能となります。
- 英国では、こうした遺伝子データ50万人分を研究し、がんや心臓病、脳卒中など様々な病気の予防や診断、治療法の開発に活用しています。日本でも今回の健康保険適用にあたり、患者から同意を得られる場合には、検査を行なう病院に国立がん研究センターへの遺伝子データの提供を義務付けることになっており、こうした遺伝子データの集積が、日本のゲノム医療の高度化などにつながると期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

アーク社の視点



今後の見通しについて

ゲノム編集技術による治療はヒト向けの治験が本格化

- 2019年は、**ヒトによる研究が進んでいた、体外でのゲノム編集(体外で細胞を処理して、再移植する)の良好な治験データ発表**に加えて、**世界初となる患者の体内でのゲノム編集治療の治験に参加する患者の募集が開始**されるなど、ゲノム編集治療にとって重要な動きがみられました。こうした動きは、ゲノム編集技術のヒトの治療に向けた研究・開発が本格化する契機になると期待されます。
- CRISPR/Cas9の基礎的特許ライセンスを保有するCRISPRセラピューティクスと同社の提携企業であるバーテックスは2019年11月、CRISPR/Cas9技術を活用した遺伝性の血液疾患(ベータサラセミアと鎌状赤血球症)の治療法の治験において、**初期段階ながら有望な結果が示されたと発表**しました。
- これらの血液疾患の治療には、定期的な輸血など、多くの医療的な措置が必要で、入院を含め、生涯にわたり多大な費用がかかるとされます。同社の治験は続いており、他の患者の追加データが2020年中に発表される見込みです。**治療の効果があり、持続性があるとの更なる証拠が示されれば、早期承認への道が開ける可能性がある**とみています。
- また、CRISPRセラピューティクスと同じくCRISPR/Cas9の基礎的特許ライセンスを保有するエディタス・メディシンは2019年8月、遺伝性の眼疾患患者の治験を行なうための患者の募集開始を発表しました。この治験は、**患者の体内でゲノム編集を行なう治療としては世界初**となる見込みで、2020年初め頃の投与が見込まれます。

ゲノム編集技術のCAR-T細胞療法への応用が期待される

- ゲノム編集技術を活用したCRISPR技術の初期の可能性のある治療法には、次世代のCAR-T細胞(キメラ抗原受容体T細胞)療法が挙げられます。
- CAR-T細胞療法は、2018年に承認されて以降、非常に高額な薬価が話題になりました。しかし、白血病やリンパ腫など血液ガンに対する高い治療効果をもとに考えると、その高薬価にもかかわらず、既存の治療法よりも総合的な治療費は安価になると考えられます。
- ゲノム編集技術のCAR-T細胞療法への応用は、**その治療効果を高めることに加え、コストの低減や、患者の治療期間の短縮、固形がん治療への応用**など、大きな可能性を秘めており、同療法の今後の市場規模拡大が期待されます。
- アーク社では、これらの治療法は、その効果の持続が確認されれば、薬価に関して大きなプレミアムがつくことが見込まれるとともに、ファーストトラック(完治が難しい疾患に対し、高い治療効果が期待できそうな新薬をFDA(アメリカ食品医薬品局)が優先的に審査する制度)などへの指定も期待されます。
- こうしたことを考慮に入れると、**株式市場は、これらゲノム編集治療薬の価値をかなり低く見積もっている**と考えています。これら医薬品が市場に投入される道筋や決定される薬価は、過去の医薬品に対するものとは、根本的に違うと考えています。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(アーク社)のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

アーク社からのメッセージ

～ 投資家の皆さまへ ～

近年のゲノム解析（遺伝情報の解析）の進化や、革新的なゲノム編集技術の登場により、破壊的イノベーションといえる「ゲノム革命（解析+編集）」が起きているとアークは考えています。これにより、医療や食糧（生産）など幅広い分野の既存ビジネスを置き換えてゆく可能性があります。

アークは、こうしたゲノム革命をリードする企業を厳選し、今後3-5年間における成長機会に着目しています。

こうした企業は、中小規模の会社が多く、株価の変動は大きい傾向にあります。当ファンドにおいても、相対的に高い価格変動がみられます。しかし、革新的な企業においては、市場の落ち着きとともに資金は戻るとアークは考えており、短期的な市場変動が投資先企業の成長に影響を与えないと判断した場合、市場変動に立ち向かい、中長期的な視点でパフォーマンスの獲得をめざす運用スタイルを持っています。

ゲノム革命は、まだ市場に正当に評価されていないと考えられる長期のメガトレンドです。投資家の皆さまには、少し先を見据えた中長期の投資対象として、引き続き当ファンドをご愛顧いただければ幸いです。



Catherine D. Wood

ARK創業者、CIO/CEO

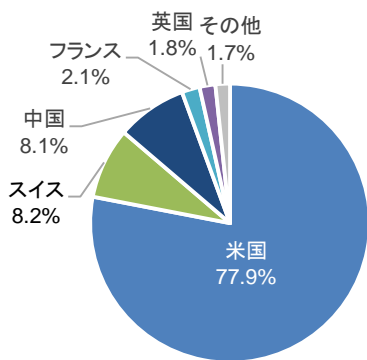
- 2014年1月にARKを設立する前は12年間大手運用会社にてグローバルテーマ株式運用のCIOとして50億ドル以上を運用。
- ダボス会議への出席や、2016“Women in Finance, Outstanding Contribution Awarded”、2018“Bloomberg’s Top 50”での選出など、今、業界で最も注目される女性のひとり。

上記は、「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」のマザーファンドに助言を行なっているアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー（アーク社）のコメントをもとに日興アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の方見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

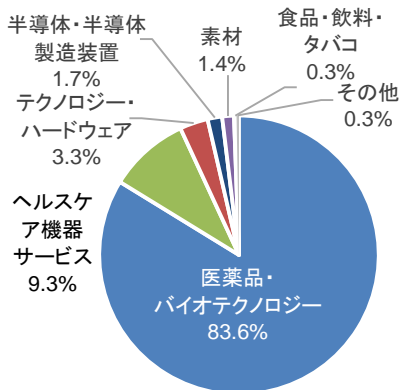
当資料は、投資者の皆様に「グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(2019年12月末時点)

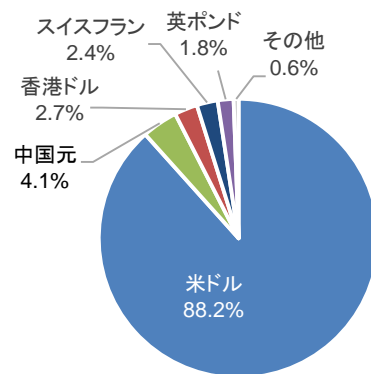
【国・地域別比率】



【業種別比率】



【通貨別比率】



※ 四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【組入上位10銘柄】

(銘柄数:52銘柄)

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	組入比率
1	イルミナ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	8.9%
2	CRISPRセラピューティクス	米ドル	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	5.8%
3	リジェネロン・ファーマシューティカルズ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.9%
4	エディタス・メディシン	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	4.5%
5	テラドック・ヘルス	米ドル	米国	ヘルスケア機器・サービス	4.4%
6	インビテ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.5%
7	アイオバンス・バイオセラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.3%
8	ブリストル・マイヤーズ スクイブ	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.3%
9	アップル	米ドル	米国	テクノロジー・ハードウェア	3.3%
10	インテリア・セラピューティクス	米ドル	米国	医薬品・バイオテクノロジー	3.2%

※ 業種名はGICS(世界産業分類基準)に基づきます。
 ※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
 ※ 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主に、世界の株式の中から、ゲノム関連ビジネスを行なう企業およびゲノム技術の恩恵を受ける企業の株式*に投資を行ないます。
* 預託証券を含みます。
- 2 個別銘柄の選定において、アーク社の調査力を活用します。
- 3 年1回、決算を行ないます。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申し込みの際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申し込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年12月7日まで(2019年1月16日設定)
決算日	毎年12月7日(休業日の場合は翌営業日)
購入・換金 申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日または ニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率1.804%(税抜1.64%)</u>
その他の 費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を 乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託 財産から支払われます。 ※ 運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはでき ません。また、有価証券の貸付は現在行なっておりませんので、それに関連する報酬は かかりません。

※ 投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて
異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.nikkoam.com/ [コールセンター]0120-25-1404(午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○

(資料作成日現在、50音順)